

# 重信川中流域の野鳥



愛媛県立松山中央高等学校

バードウォッチング部

# はじめに

バードウォッチング部

部長 小川次郎

私たち松山中央高校バードウォッチング部は、重信川という恵まれた環境を活動場所とし、これまでたくさんの野鳥を観察してきました。その記録を日誌に付けているうちに「この価値ある記録をそのまま眠らしておくのはもったいない。」と考えるようになり、今年に入ってからこの冊子の作成を思い付きました。しかし、なかなか時間がとれなかった上、記録も不十分であったりして、決して満足のいくものはできませんでした。ただ、今後、後輩達がこの記録を受け継ぎ、より充実したものを作ってくれる資料になれば、と思っています。

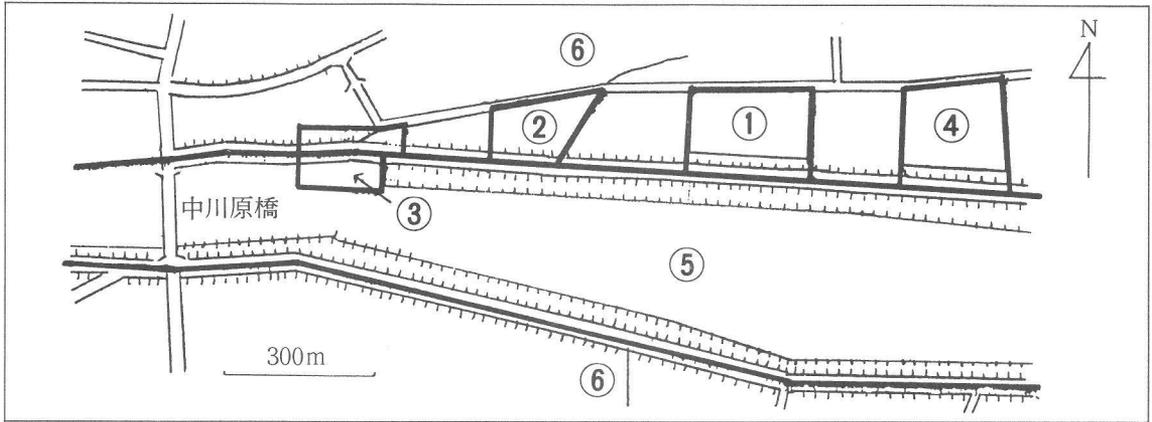
ところで、この冊子を見るに当たって注意しておいてほしいことがあります。まず、調査場所と調査期間ですが、ここではバードウォッチング部の主な活動場所である重信川中流域を調査区域（P 2 参照）と定めています。そして、そこにおける部の記録（1986年から1993年6月まで）と部員の個人的な記録（1988年以後）を整理し、それぞれの鳥について月ごとの記録の有無を分かりやすく表にまとめました。

つぎに、表（P 8～P 11）に関する説明ですが、そこに記されている「季節」、「出現度」「時期」（斜線部分）というのは、今回集計した記録といろいろな資料を照らし合わせて想像したものであって、決して確実なものではありません。また、「生活場所」というのは、調査区域内だけにあてはまるものであって、他の場所でのそれと必ずしも一致しない上、不十分な所もあります。これらのことを考慮に入れて見てもらえれば、私たちの中央高校がどれだけたくさんの野鳥に囲まれたすばらしい環境であるかということが、十分に分かってもらえるのではないかと思います。

このようなすばらしい環境がいつまで続くのか分かりませんが、今後また、このような調査をする機会があったならば、これは重信川中流域における環境の変化を知る貴重な資料となることと思います。それを期待して、この冊子を残していきたいと思っています。

平成 5 年 9 月 20 日

## ● 調査区域区分図 ●



① 松山中央高等学校

② かきつばた浄水場

③ 豚小屋周辺

④ サンパーク

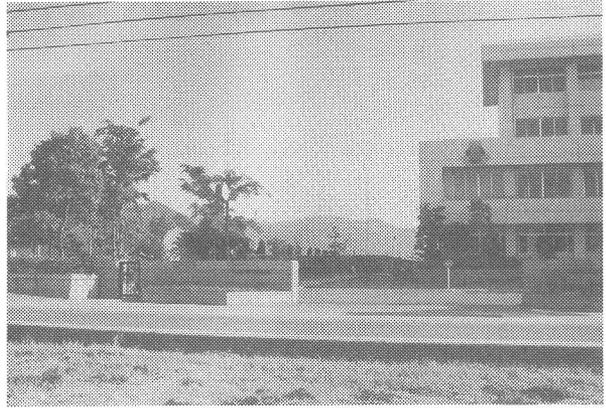
⑤ 重信川

⑥ その他の区域

重信川の北側と南側

## ① 松山中央高等学校

校内で最も鳥の記録が多い場所は、正門付近である。ほかには校舎のアンテナや芝生、ていれぎの泉でも観察できる。スズメは校内のあちこちで繁殖している。



—— 記録した鳥 ——

留 鳥……キジバト・セグロセキレイ・ヒヨドリ・スズメ・ムクドリ・ハシボソガラス・ハシブトガラス

夏 鳥……コシアカツバメ・ツバメ

冬 鳥……ツグミ

旅 鳥……キレンジャク・(ノゴマ・ヤブサメ・オオルリ)

( )内は落鳥

## ② かきつばた浄水場

かきつばた浄水場の西にある2つの低木林は、かつてゴイサギとコサギのねぐらになっていた。林内ではキジが繁殖していたようである。



—— 記録した鳥 ——

留 鳥……ゴイサギ・コサギ・キジ・キジバト・ヒヨドリ・モズ・スズメ・ムクドリ・ハシボソガラス・ハシブトガラス

夏 鳥……ツバメ

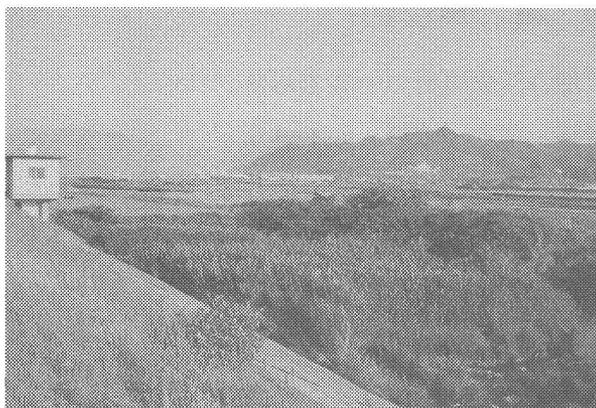
冬 鳥……トラツグミ・ツグミ

旅 鳥……コイカル・コムクドリ

その他……コジュケイ

### ③ 豚小屋周辺

豚小屋そのものよりも、その用水路に鳥が多い。珍しい鳥が現れることがあるので、観察する時は気をつけた方がよい。レンカクという迷鳥がきたという話がある。



—— 記録した鳥 ——

留 鳥……カイツブリ・ゴイサギ・コサギ・ダイサギ・アオサギ・バン・イソシギ・キジ・キジバト・カワセミ・キセキレイ・セグロセキレイ・ヒヨドリ・モズ・セッカ・ホオジロ・カワラヒワ・スズメ・ムクドリ・ハシボソガラス・ハシブトガラス

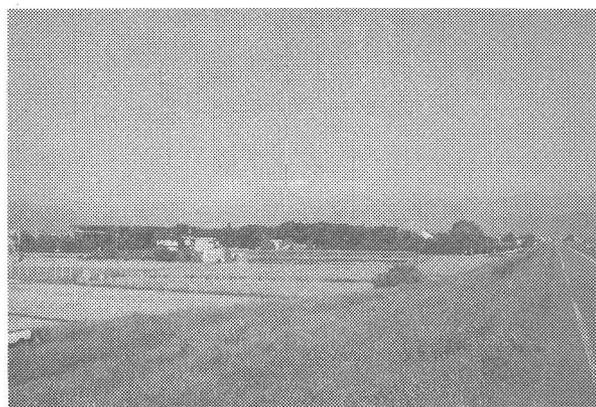
夏 鳥……ヨシゴイ・ツバメ・オオヨシキリ

冬 鳥……マガモ・コガモ・ヒドリガモ・クサシギ・タシギ・ハクセキレイ・ジョウビタキ・ツグミ・アオジ・オオジュリン

旅 鳥……シマアジ・アジサシ・クイナ・キアシシギ・ノビタキ・キビタキ

### ④ サンパーク

部の活動場所から外れていることもあって、あまり記録がない。周辺部の林や、中にある芝生には鳥が多いと思われるが、中に入れなため未確認である。



—— 記録した鳥 ——

留 鳥……キジバト・ヒヨドリ・モズ・カワラヒワ・スズメ・ムクドリ・ハシボソガラス・ハシブトガラス

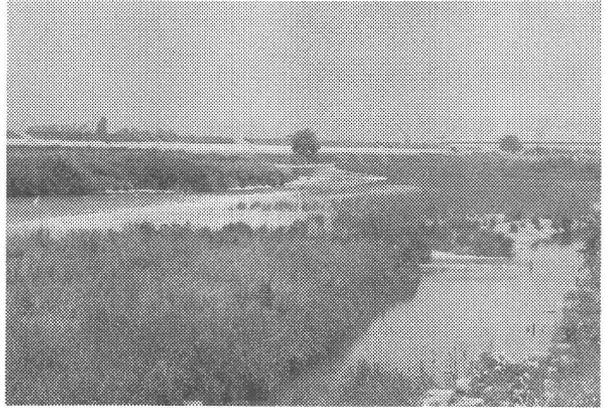
夏 鳥……ツバメ

冬 鳥……ツグミ

その他……フクロウ

## ⑤ 重 信 川

部の活動場所の中心である。河原・草地・葦原・低木林などいろいろな環境があり、それぞれの場所でさまざまな野鳥が生活している。そのため、水辺の鳥だけでなく、山野の鳥も多く見られる。



### —— 記録した鳥 ——

- 留 鳥……カイツブリ・ゴイサギ・コサギ・ダイサギ・アオサギ・バン・イカルチドリ・イソシギ・トビ・ハヤブサ・キジ・キジバト・カワセミ・ヒバリ・キセキレイ・セグロセキレイ・ヒヨドリ・モズ・ウグイス・セッカ・ホオジロ・カワラヒワ・スズメ・ムクドリ・ハシボソガラス・ハシブトガラス
- 夏 鳥……コアジサシ・ササゴイ・アマサギ・チュウサギ・ヒクイナ・コチドリ・コシアカツバメ・ツバメ・オオヨシキリ
- 冬 鳥……マガモ・カルガモ・コガモ・オナガガモ・ヒドリガモ・ユリカモメ・タゲリ・クサシギ・タシギ・オオタカ・ハイタカ・チョウゲンボウ・コミミズク・ハクセキレイ・タヒバリ・ジョウビタキ・シロハラ・ツグミ・ツリスガラ・メジロ・カシラダカ・ホオアカ・アオジ・オオジュリン
- 旅 鳥……シマアジ・ムナグロ・ケリ・トウネン・ウズラシギ・ハマシギ・ツバメチドリ・タカブシギ・コアオアシシギ・キョウジョシギ・アオアシシギ・キアシシギ・チュウシャクシギ・アマツバメ・ビンズイ・アカハラ・コムクドリ
- その他……クロサギ・ミサゴ

## ⑥ その他の地域

①～⑤の区域以外の場所のうち、区域内から鳥を見ることができる範囲を指す。  
特に冬、重信川の北側に広がる田畑には鳥が多い。

—— 記録した鳥 ——

### 重信川の北側

- 留 鳥……ゴイサギ・コサギ・アオサギ・トビ・キジ・キジバト・ヒバリ・セグロ  
セキレイ・ヒヨドリ・モズ・ウグイス・セッカ・ホオジロ・カワラヒワ・  
スズメ・ムクドリ・ハシボソガラス・ハシブトガラス
- 夏 鳥……アマサギ・アオバズク・コシアカツバメ・ツバメ
- 冬 鳥……タゲリ・クサシギ・チョウゲンボウ・ハクセキレイ・タヒバリ・ツグミ・  
ホオアカ・アオジ
- 旅 鳥……キアシシギ・ヒメアマツバメ・イカル・コムクドリ

### 重信川の南側

- 留 鳥……ゴイサギ・コサギ・ダイサギ・アオサギ・トビ・キジバト・ヒバリ・セ  
グロセキレイ・ヒヨドリ・モズ・セッカ・ホオジロ・カワラヒワ・スズ  
メ・ムクドリ・ハシボソガラス・ハシブトガラス
- 夏 鳥……アマサギ・サシバ・コシアカツバメ・ツバメ
- 冬 鳥……ハクセキレイ・タヒバリ・ツグミ
- 旅 鳥……アマツバメ

## 事 項 説 明

1. 鳥 名 : 鳥名の順序はフィールドガイド「日本の野鳥」(日本野鳥の会編)によった。
2. 季 節 : その鳥が区域内で観察される可能性のある季節を示している。
  - 一年中 …… 留鳥。一年中見られる。
  - 夏 …… 夏鳥。冬を除く季節に見られる。
  - 冬 …… 冬鳥。夏を除く季節に見られる。
  - 春・秋 …… 旅鳥。春と秋のみに見られる。
  - \*\*\* …… 季節がはっきりしていない。
3. 出現度 : その鳥が区域内で観察される可能性を示している。
  - 高 …… その鳥のいる時期に観察に行けばよく見られる。
  - 中 …… その鳥のいる時期に観察に行けば時々見られる。
  - 低 …… その鳥のいる時期に観察に行ってもあまり見られない。
  - 稀 …… その鳥のいる時期に観察に行っても稀にしか見られない。
  - 落 …… 落鳥。学校の校舎に衝突して死んで落ちた個体が発見されたもの。「稀」に含まれるがあえて区別した。
4. 生活場所 : その鳥が区域内で観察される可能性のある場所を示している。すなわち、その鳥の主な生活場所のことである。
  - 上 空 …… ほとんど上空で観察される。
  - 田 畑 …… 水田・畑・休耕田など。
  - 草 地 …… 河川敷・土手・茂みなどを含む草地。
  - 葦 原 …… 葦やすすきの群生している場所のことであるが、一部、低木や竹林などが混じる場所も含む。
  - 低木林 …… 低木の生えている場所。
  - 川 原 …… 川沿いの砂礫地帯。
  - 水 面 …… 主に水面で観察される。
  - 水 辺 …… 水のある場所の周辺。
  - 構造物 …… 校舎、橋、電線など。
5. 時 期 : その鳥が区域内で記録された時期と、記録する可能性のある時期を示している。
  -  …… 調査区域内で、記録された時期。
  -  …… 調査区域内で、未記録だが記録する可能性のある時期。

鳥名	季節	出現度	生活場所								時期													
			上空	畑	草地	葎原	低木林	川原	水面	水辺	構造物	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
												前後	前後	前後	前後									
1	カイツブリ	一年中	中							○	○													
2	マガモ	冬	中							○	○	○												
3	カルガモ	冬	中							○	○	○												
4	コガモ	冬	高							○	○	○												
5	シマアジ	春秋	低							○	○	○												
6	オナガガモ	冬	低							○	○	○												
7	ヒドリガモ	冬	中							○	○	○												
8	ユリカモメ	冬	中	○								○	○											
9	アジサシ	秋	稀	○																				
10	コアジサシ	夏	中	○					○															
11	ヨシゴイ	夏	低				○																	
12	ゴイサギ	一年中	高	○	○	○	○	○	○															
13	ササゴイ	夏	中					○	○															
14	アマサギ	夏	中	○	○			○	○															
15	コサギ	一年中	高	○	○			○	○															
16	チュウサギ	夏	低	○	○			○	○															
17	ダイサギ	一年中	高			○		○	○															
18	クロサギ	***	稀						○															
19	アオサギ	一年中	高	○	○			○	○															
20	バン	一年中	低			○	○		○	○														
21	クイナ	春秋	低			○	○																	
22	ヒクイナ	夏	稀			○	○																	
23	コチドリ	夏	中	○					○															
24	イカルチドリ	一年中	高						○															





	鳥名	季節	出 現 度	生活場所							時 期													
				上 空	田 畑	草 地	葦 原	低 木 林	川 原	水 面	水 辺	構 造 物	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
													前後	前後	前後									
73	シロハラ	冬	低		○	○	○	○		○														
74	ツグミ	冬	高	○	○	○	○	○		○	○													
75	ウグイス	一年中	中		○	○	○																	
76	ヤブサメ	春秋	落																					
77	セッカ	一年中	中	○	○	○																		
78	オオヨシキリ	夏	高			○																		
79	キビタキ	春秋	稀		○		○																	
80	オオルリ	春秋	落																					
81	ツリスガラ	冬	稀			○																		
82	メジロ	冬	稀				○																	
83	ホオジロ	一年中	高	○	○	○	○	○		○	○													
84	カシラダカ	冬	低	○	○																			
85	ホオアカ	冬	低		○		○																	
86	アオジ	冬	高	○	○	○	○	○		○														
87	オオジュリン	冬	低			○																		
88	カワラヒワ	一年中	中	○	○	○	○	○		○	○													
89	コイカル	春秋	稀				○																	
90	イカル	春秋	稀				○																	
91	スズメ	一年中	高	○	○	○	○	○		○	○													
92	ムクドリ	一年中	高	○	○		○	○		○	○													
93	コムクドリ	春秋	中				○	○		○	○													
94	ハシボソガラス	一年中	高	○	○		○	○		○	○													
95	ハシブトガラス	一年中	高	○	○		○	○		○	○													

※ 区域内 …… 調査区域内で観察できる季節の表示

県 内 …… 愛媛県内で観察できる季節の表示

	鳥 名	調査区域内における観察の記録と説明
	区域内/県 内	
1	カイツブリ	少数が重信川や豚小屋用水路に生息している。中川原橋のすぐ東に多く、繁殖期や水の少ない夏期の記録はない。
	留 鳥 / 留 鳥	
2	マガモ	冬期に数羽見られる。コガモやヒドリガモと一緒にいることが多い。川の水量が減少すると移動するため、全く見られないこともある。
	冬 鳥 / 冬 鳥	
3	カルガモ	マガモと同じく数羽が越冬する。6月上旬までいた記録があるが、繁殖は確認されなかった。雌雄同色で地味である。
	冬 鳥 / 留 鳥	
4	コガモ	調査区域内で記録されたカモ類の中で個体数が最も多く、またよく見られる。川に水が少ないときは、豚小屋用水路の湿地にいることが多い。
	冬 鳥 / 冬 鳥	
5	シマアジ	春と秋の渡りの時期に立ち寄るカモである。記録は少なく、1, 2羽が豚小屋用水路などで観察されているだけである。
	旅 鳥 / 旅 鳥	
6	オナガガモ	ヒドリガモの群れの中に数羽観察される程度である。重信大橋のあたりまで上っている。雄は目立つのですぐ分かる。
	冬 鳥 / 冬 鳥	
7	ヒドリガモ	調査区域内でコガモの次に多いカモで、数羽から十数羽の群れをつくる。カモ類は中川原橋のすぐ東に多く見られ、ほぼ定着しているようである。
	冬 鳥 / 冬 鳥	
8	ユリカモメ	調査区域内では通過する群れを見かける程度である。その群れは重信大橋付近で生活している個体と思われる。
	冬 鳥 / 冬 鳥	
9	アジサシ	1989年8月27日、前日台風が通過して増水した豚小屋用水路付近で、数十羽の群れを記録した。
	旅 鳥 / 旅 鳥	
10	コアジサシ	4月下旬頃から1, 2羽が通過するのを見かけることがある。残念ながら繁殖は未確認である。キリッ、キリッと鳴く。
	夏 鳥 / 夏 鳥	
11	ヨシゴイ	豚小屋用水路の葦原で2回観察記録がある。ともに6月の記録であり、他の時期にもいると思われるが、まだ確認されていない。
	夏 鳥 / 夏 鳥	
12	ゴイサギ	一年中生息しているが、特に日暮れ時には多く見られる。かきつばた浄水場の南側の林をめぐらにしていたことがある。グワッと鳴く。
	留 鳥 / 留 鳥	

13	ササゴイ	4月下旬頃から目立ち始める。川のそばに1羽単独で見られることが多い。日中も比較的良好活動している。キューと鳴く。
	夏鳥 / 夏鳥	
14	アマサギ	夏の夕方、ねぐらに帰る群れが川を下って行くのをよく見かける。
	夏鳥 / 夏鳥	秋、増水した川辺の草地にくることもある。
15	コサギ	この辺りで最もよく見られるサギである。以前、かたつばた浄水場の林をねぐらにしていた。春から夏にかけて嘴の基部が赤色になる個体がある。
	留鳥 / 留鳥	
16	チュウサギ	数が少なく、川よりも農耕地を好むためあまり見られないが、時々川で餌を採っている個体を見ることがある。夏羽の嘴の基部は黄色である。
	夏鳥 / 夏鳥	
17	ダイサギ	区域内ではしばしば見られる。首が非常に長く、夏羽の嘴の基部は青緑色。コサギ、チュウサギ、ダイサギをまとめてシラサギと呼ぶことがある。
	留鳥 / 留鳥	
18	クロサギ	1988年8月6日、サンパークの南の川原に3羽飛来した。普通、海岸に生息しているため、なぜここで記録されたのか不明である。
	*** / 留鳥	
19	アオサギ	ダイサギと同じくしばしば見られる。最も大きなサギでよく目立つ。川に水がないときは下流に下ってしまう。
	留鳥 / 留鳥	
20	バン	一年中生息していると思われるが、あまり見られない。記録は豚小屋用水路の湿地に多い。繁殖は未確認である。
	留鳥 / 留鳥	
21	クイナ	冬鳥の可能性はあるが、4月から5月にかけての記録しかない。すべて豚小屋用水路の湿地での1羽のみの記録である。すぐ隠れてしまう。
	旅鳥 / 冬鳥	
22	ヒクイナ	1992年6月19日に声を記録し、同年9月18日には姿を、それぞれ1羽確認した。なかなか姿を現さない。
	夏鳥 / 夏鳥	
23	コチドリ	3月下旬から9月頃まで記録がある。イカルチドリに比べて個体数が少なく、1、2羽見られる程度である。
	夏鳥 / 留鳥	
24	イカルチドリ	一年中記録があり、春頃からピッピピッと鳴きながら飛んでいるのをよく見かける。コチドリとともに川原で繁殖している。
	留鳥 / 留鳥	
25	ムナグロ	春、特に4月下旬から5月上旬にかけて川原で1羽から数羽見られる。秋にも記録があるが、ピークは4月下旬と思われる。
	旅鳥 / 冬鳥	
26	タゲリ	過去に3回記録がある。冬期に1度、河川敷で記録された以外は、秋に渡りの群れが上空を通過するのが目撃されたのみである。
	冬鳥 / 冬鳥	

27	ケリ	1992年4月21日に、川の上流に向かって飛んで行く個体が1羽目撃された。渡りの途中と思われる。
	旅鳥 / 冬鳥	
28	トウネン	春と秋に数羽が渡来する。記録は4回と少ない。あまり川の中流域には上がってこないものと思われる。
	旅鳥 / 旅鳥	
29	ウズラシギ	1992年9月1日、ハマシギの群れといっしょに1羽記録された。水田によく見られる種類なので、川原で記録することは少ない。
	旅鳥 / 旅鳥	
30	ハマシギ	4月から5月と9月上旬に川原や湿地で記録がある。普通は数羽でいることが多いが、20羽を超えたこともある。ピークは5月上旬と思われる。
	旅鳥 / 冬鳥	
31	ツバメチドリ	1993年5月29日に1羽記録された。上空を高速で飛び回り、下流へ飛んで行ってしまった。飛ぶと腰が白く見える。
	旅鳥 / 夏鳥	
32	タカブシギ	今のところ春の記録しかない。4月下旬から5月上旬にかけて1羽ずつ観察されている。記録はそれほど多くない。
	旅鳥 / 旅鳥	
33	クサシギ	秋から春にかけて普通、1、2羽が見られる。7月上旬から5月下旬まで記録があり、6月のみ記録がない。
	冬鳥 / 冬鳥	
34	コアオアシシギ	1992年9月16日に1羽、川原で記録された。アオアシシギとよく似ていて、識別が非常に難しい。
	旅鳥 / 旅鳥	
35	イソシギ	唯一、一年中記録のあるシギ類である。繁殖期に記録があるので、その繁殖が期待されるがまだ未確認である。今後、注目すべき鳥である。
	留鳥 / 留鳥	
36	キョウジョシギ	今のところ5月の記録しかなく、他の時期の記録が期待される。ピークは5月上旬と思われる。シギ類の中では比較的識別が容易である。
	旅鳥 / 旅鳥	
37	アオアシシギ	5月と、7月下旬から11月上旬にかけて記録がある。足は緑青色で、飛ぶと尾から腰が白い。キョーキョーキョーと鳴く。
	旅鳥 / 旅鳥	
38	キアシシギ	4月下旬から6月上旬、7月下旬から11月上旬に記録がある。足は黄色で、よくピュイーと鳴きながら飛ぶ。個体数が多く、よく見られる。
	旅鳥 / 旅鳥	
39	チュウシャクシギ	嘴が長く下に湾曲しているシギ類である。春秋に記録があるが少ない。重信川河口には多数渡来している。
	旅鳥 / 旅鳥	
40	タシギ	冬鳥として川辺の湿地などに普通に渡来する。地味な鳥で、じっとしていることが多いので見逃されやすい。嘴はまっすぐで長い。
	冬鳥 / 冬鳥	

41	ミサゴ	1991年7月8日に1羽記録がある。一年中記録する可能性があるが、重信川中流域での記録は少ない。
	*** / 留鳥	
42	トビ	一年中記録があるが、時々現れる程度である。上空を巡回していることが多く、からだが大きいのによく目立つ。
	留鳥 / 留鳥	
43	サシバ	1990年6月2日に1羽、伊予市の山の上空で記録したことがある。平地にはめったに現れないので、調査区域で見るとはまずない。
	夏鳥 / 夏鳥	
44	オオタカ	冬期、川の上空での記録が7回ある。ハイタカとよく似ていて、見分けるのは難しい。タカ類が現れることは少ない。
	冬鳥 / 冬鳥	
45	ハイタカ	オオタカとよく似ているが、やや小さめである。記録はオオタカより少なく3回しかない。
	冬鳥 / 冬鳥	
46	ハヤブサ	これまでに10回、時期はばらばらであるが一年中記録がある。夏期に記録された個体は若鳥である。一度だけ小鳥を捕らえたのを目撃した。
	留鳥 / 留鳥	
47	チョウゲンボウ	農耕地に生息しているため、記録する可能性は高いが、5回しか記録がない。尾が長いのが特徴である。
	冬鳥 / 冬鳥	
48	コミミズク	1992年12月22日に1羽、学校南の川沿いの草地で記録した。大きなからだのわりには羽音をたてずに飛ぶ。
	冬鳥 / 冬鳥	
49	フクロウ	1990年の10月から11月にかけて2回、サンパークの林で1羽記録した。普通は山で生活するので、移動の途中立ち寄ったものと思われる。
	*** / 留鳥	
50	アオバズク	1993年6月7日の午後8時頃、学校付近の低木林で1羽、声を記録した。ホッホー、ホッホーとよく鳴く。
	夏鳥 / 夏鳥	
51	コジュケイ	1993年の5月から6月にかけて数回、それぞれ1羽の声を記録した。今後も記録する可能性がある。ピクピイー、ピクピイーと大きな声で鳴く。
	*** / 留鳥	
52	キジ	一年中草原で生活している。春から夏には大声でケンケンと鳴く。冬はあまり姿を見せず、記録が少ない。日本の国鳥である。
	留鳥 / 留鳥	
53	キジバト	一年中普通に居る鳥であり、市街地でも木があれば見られる。ヤマバトと呼ぶ人も居る。神社や公園に居る灰色のハトはドバトで、野鳥ではない。
	留鳥 / 留鳥	
54	ヒメアマツバメ	1991年4月13日に一度だけ、学校付近の上空で1羽記録された。はっきりした記録ではないが、たぶん間違いはないと思われる。
	旅鳥 / 留鳥	

55	アマツバメ	春と秋に川の上空を通過する。普通数羽が見られる程度だが、時には数十羽の群れになることもある。ツバメよりも体が大きく、翼が長い。
	旅鳥 / 夏鳥	
56	カワセミ	一年中見られるが、夏の記録は少ない。個体数は一時3, 4羽だったが、最近は1, 2羽の記録がほとんどである。
	留鳥 / 留鳥	
57	ヒバリ	春先から上空でさえずり始め、春を感じさせる鳥である。一年中見られ、個体数も多い。見た目は地味な鳥である。
	留鳥 / 留鳥	
58	コシアカツバメ	1991年と1992年の6月頃、中央高校にきて繁殖を試みたが、巣を作るとすぐにスズメに奪われてしまい、まだ繁殖に成功していない。
	夏鳥 / 夏鳥	
59	ツバメ	3月頃から見られ始め、4月には普通に見られるようになる。個体数は多く、川の上空を飛び回っている。学校では普通に繁殖している。
	夏鳥 / 夏鳥	
60	キセキレイ	ほとんど一年中記録があるが、繁殖は別の場所で行うため、その期間はまず見られない。個体数は少なく、1, 2羽が観察されるのみである。
	留鳥 / 留鳥	
61	ハクセキレイ	9月下旬から姿を現し、4月下旬までに渡って行く。個体数は多く、川原などで普通に見られる。
	冬鳥 / 冬鳥	
62	セグロセキレイ	一年中見られ、普通に繁殖している。セキレイ類は主に川原で見られ、体はスマートで尾が長く、よく尾を上下に振る。
	留鳥 / 留鳥	
63	ビンズイ	春と秋に上空を通過していく個体が見られる。主に10月下旬から11月上旬にかけての記録であるが少ない。セキレイの仲間である。
	旅鳥 / 留鳥	
64	タヒバリ	冬鳥として川原や畑などで生活している。個体数は少なくないが、地味な鳥なので目立たない。セキレイの仲間である。
	冬鳥 / 冬鳥	
65	ヒヨドリ	留鳥として低木林などで普通に見られる。校庭にも木ノ実を食べにやってくる。春や秋には渡りの小群が観察されることがある。
	留鳥 / 留鳥	
66	モズ	一年中普通に見られる。よく木の枝に止まっていて、長めの尾を振ったり回したりしている。ギチギチギチ……とか、キーンなどと大声で鳴く。
	留鳥 / 留鳥	
67	キレンジャク	1993年4月21日に1羽、学校正門付近の木に止まっているのを記録した。レンジャク類は主に春、群れで低木林等にやってくる。
	旅鳥 / 旅鳥	
68	ノゴマ	1990年5月、校舎付近で死んでいる個体を1羽記録した。渡りの途中、誤って校舎の窓に衝突したと思われる。
	旅鳥 / 旅鳥	

69	ジョウビタキ	冬鳥として川沿いの草原などに渡来する。きれいな鳥で、ヒッヒッ
	冬鳥 / 冬鳥	とかカッカなど鳴く。個体数はそれほど多くない。
70	ノビタキ	旅鳥として春と秋に立ち寄る。ほとんどが4月と10月の記録で、そ
	旅鳥 / 旅鳥	れぞれ1羽ずつである。豚小屋周辺での記録がほとんどである。
71	トラツグミ	1990年2月12日に1羽、かきつばた浄水場のそばの低木林で記録し
	冬鳥 / 留鳥	たことがあるだけである。
72	アカハラ	1993年4月19日、学校南の川原で1羽記録した。渡りの前と思われ
	旅鳥 / 冬鳥	る。それほど個体数の多い鳥ではない。
73	シロハラ	冬鳥として川沿いのやぶに生息している。近づくと逃げるので見つ
	冬鳥 / 冬鳥	けられるが、普段はやぶに隠れていてあまり見られないので記録も少ない。
74	ツグミ	冬鳥として農耕地、河川敷、川原などで観察できる。個体数が多く
	冬鳥 / 冬鳥	よく見られる鳥であり、学校の芝生にもよく来る。
75	ウグイス	一年中やぶや葦原に生息しているが、秋から冬は目立たない。春は
	留鳥 / 留鳥	ホーホケキョと鳴く。冬はチャッ、チャッと小さな声で鳴く。
76	ヤブサメ	1992年10月29日、校舎付近で死んでいる個体が1羽見つかった。ノ
	旅鳥 / 夏鳥	ゴマと同様に渡りの途中で死んだものと思われる。
77	セッカ	春から夏にかけて、草原の上空でヒッヒッ……、チャッチャッ……
	留鳥 / 留鳥	と鳴いている。一年中生息しているが、冬に見つけることは容易ではない。
78	オオヨシキリ	4月下旬頃渡ってきて、葦原に生息する。ギョギョシ、ギョギョシ
	夏鳥 / 夏鳥	と濁った声で鳴く。鳴くと口の中が赤っぽいのがよく見える。
79	キビタキ	1991年4月13日に1羽、豚小屋用水路の茂みで記録した。渡りの途
	旅鳥 / 夏鳥	中立ち寄ったもので、じっくり観察できた。
80	オオルリ	1992年4月下旬、校舎付近で死んでいる個体が1羽見つかった。春
	旅鳥 / 夏鳥	と秋は、校舎付近を探せばこのような落鳥が見つかる可能性がある。
81	ツリスガラ	1988年3月19日に6羽、1993年5月1日に1羽、それぞれ葦原で記
	冬鳥 / 冬鳥	録された。非常に小さい鳥で葦に紛れるとなかなか見つけられない。
82	メジロ	冬から春にかけて、川沿いの低木林で見られることがある。あまり
	冬鳥 / 留鳥	記録がなく、観察するチャンスは少ない。

83	ホオジロ	一年中普通に見られる。よく木や草の先に止まってさえずっている。
	留鳥 / 留鳥	河川敷、草むら、田畑など、いろいろな場所で観察される。
84	カシラダカ	冬鳥として渡来するが、あまり記録がない。少し上流の草地には多
	冬鳥 / 冬鳥	く生息している。ホオジロに似ている。
85	ホオアカ	冬鳥として渡来するが、個体数が少ないこともあって、記録はほと
	冬鳥 / 留鳥	んどない。背丈の低い草地に生息している。
86	アオジ	冬鳥として川沿いの茂みなどに渡来する。個体数は多いが、人が近
	冬鳥 / 冬鳥	づくときすぐ茂みに隠れてしまうため、なかなか観察することができ
87	オオジュリン	冬鳥として葦原に渡来する。個体数が多くないうえに、葦に紛れて
	冬鳥 / 冬鳥	見つけるのが難しい鳥である。チュイーン、チュイーンと鳴く。
88	カワラヒワ	一年中見られるが、繁殖期にはほとんど記録がない。冬の間は、数
	留鳥 / 留鳥	十から数百羽の群れをつくり、川沿いの草地などで生活している。
89	コイカル	1991年4月13日、かきつばた浄水場付近の林で十数羽の群れを記録
	旅鳥 / 冬鳥	した。近くでは椿神社でよく見られる。
90	イカル	1990年4月10日、かきつばた浄水場の北で十数羽の群れを記録した。
	旅鳥 / 留鳥	コイカルとよく似ている。
91	スズメ	一年中普通に見られる。学校周辺や豚小屋付近、葦原などで生活し
	留鳥 / 留鳥	ている。人の住んでいる所ならたいてい見られる。
92	ムクドリ	一年中普通に見られる。繁殖期以外は大群をつくる。キュルキュル
	留鳥 / 留鳥	とかジャージャーなどと大声で鳴く。
93	コムクドリ	春は川沿いの低木林で見られる。数羽または十数羽の群れで行動す
	旅鳥 / 旅鳥	る。秋はムクドリの群れの中に混じっている。
94	ハシボソガラス	一年中見られるが、個体数はそれほど多くない。嘴が細く、ガーガ
	留鳥 / 留鳥	ーなどと濁った声で鳴く。農耕地や川原などに多い。
95	ハシブトガラス	一年中記録があるが、個体数は少ない。嘴が太く、カーカーなどと
	留鳥 / 留鳥	澄んだ声で鳴くことが多い。市街地から山地まで、幅広く生活して



フィールドスコープを使いながら豚小屋付近で重信川の野鳥を観察。

1993年4月



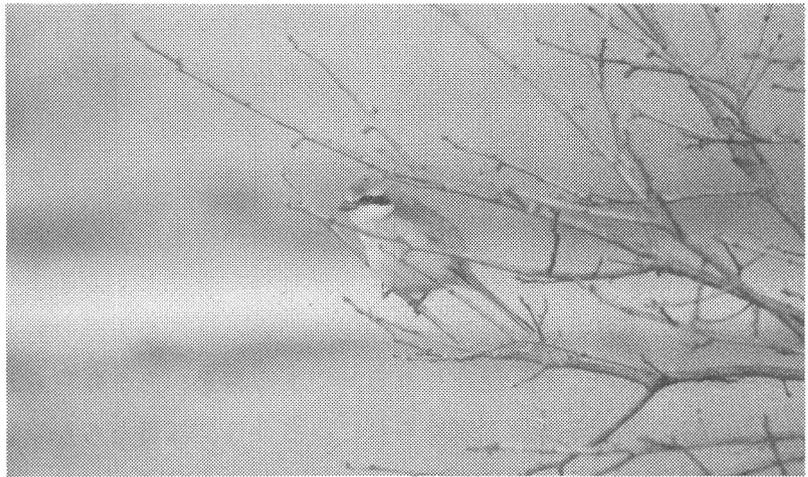
フィールドスコープと双眼鏡を使いながら中央高校近くの重信川の川原で野鳥を観察。

1993年7月



草むらに紛れるアオジ  
(1993年 3月撮影)

柿の木の枝に  
とまるモズ  
(1993年 3月撮影)



魚をねらうコサギ  
(1991年 5月撮影)

# あ と が き

バードウォッチング部  
顧問 佐野章雲

実のところ、この中央高校の付近だけで、年間を通じて95種類もの野鳥を見ることができていることに驚いている。バードウォッチング部創設以来の記録と、現在の部長の小川君の個人的な記録を照合し、この冊子を完成させたのであるが、こんなにいろいろな種類がいるとは驚きだった。

この冊子は、過去7年間に、中央高校付近で記録された野鳥のそれぞれの時期や状況、あるいは特徴などを中心として書かれており、一般的な野鳥の解説書とは異なっている。そこで、日本野鳥の会の発行している「フィールドガイド日本の野鳥」や、愛媛県支部が発行している、観察ガイドブック「はばたき」などを参照しながら、この冊子を見ていただくと、中央高校付近の野鳥について、もっとよく知ってもらえることと思います。

最近では、中央高校付近の重信川も、オフロード車やモトクロスのバイクなどが走ることが多くなり、コチドリやイカルチドリの巣や卵が壊されたり、また、高速道路の河川工事のせいか、以前はよく見られたカワセミがあまり見られなくなっている。時代の流れとは言え、人間の生活がいろいろな方面で野鳥の生活を圧迫している。このままいくと、現在見れる鳥ですら将来、あまり見られなくなるかも知れません。自然環境の保護が求められている今日、部員たちが確認しただけでも、95種類もの野鳥のいる重信川を、いつまでも野鳥の楽園として、守っていきたいものです。

平成 5 年 9 月 20 日

## バードウォッチング部員

1 期 生    ○梅木 達也    栗原 高亮    清水 大輔    関 清仁  
                 永安 聖二    森本 和則

2 期 生    ○大西秀次郎    富岡 秀幸    武市美枝子    谷 千寿子  
                 中村 綾

4 期 生    ○越智 敏幸    加藤 宝    松友 崇    伊藤みはる  
                 上元 明子

5 期 生    ○小川 次郎    新井 祐子    阿部 史子    井伊 直美  
                 井上 栄子    小西 末由    丹生谷礼香

7 期 生    佐藤真一郎    山下 洋平    宇都宮芳江    戒田 智子  
                 金和理恵子    田中 恭子    谷 真木    鳥生 明子

○印は部長

(表紙 セグロセキレイ)